

平城宮跡整備、県が一部事業の予算執行停止も 県と市一体整備へ、粘り強く要望

平城宮跡は、平成20年の国の「公園基本計画」と、平成25年の国と県が定めた「平城宮跡歴史公園拠点ゾーン整備計画」に基づき、これまで魅力や利便性の向上につながる整備が進められてきました。ところが、昨春の統一地方選後の知事交代で、一部事業の予算執行が停止になりました。しかしながら地元選出の議員として、県と市が一体となって必要な整備を進めていくよう、関係機関へ粘り強く要望活動を続けています。

平城宮跡関連の整備は、平城宮跡内を通る近鉄奈良線と、県、市、近鉄の3者で移設について計画し、進めていく方針でしたが、就任した山下知事はこれを見直し。しかし近鉄大和西大寺駅の高架化は行っていく考えを示しています。

また県営平城宮跡歴史公園朱雀大路東側地区（歴史体験学習館関連）と、南側地区整備も予算執行が停止になっています。近鉄大和西大寺駅の「開かずの踏切」問題に加えて、大型バス駐車場から平城宮跡の朱雀門に入るためには、阪奈道路（大宮通り）を渡る必要があり、横断歩道までは遠い。地図参照のため、危険な横断を試みる観光客の姿も見られます。

私は世界遺産を有する地元選出の市議として、より魅力ある平城宮跡へ、粘り強く要望を続けています。



宮跡へ必要な整備や一体となった地元のまちづくりを求め、提案や要望を続けてまいります。特に交通の危険については、観光客だけでなく、地元の皆様への危険も想定されることから、横断歩道の設置など関係機関と協議しながら、地元の声を山下知事に届けていきたいと考えています。



短絡的で議会軽視な 市政手法改善求める

一方的な公民館廃止計画

将来的な人口減少を想定した行財政改革の一環として、市内24公民館のうち、基幹型の6館（生涯学習センター、中部、西部、平城東、南部、都祁）を除いて「地域ふれあい会館」に機能を移転して順次廃止する計画案を打ち出しました。また障害者団体が利用する

地元の声を行政に



【交差点の歩道拡幅】

観音庵千手院前の市道交差点は、通学路になっているものの、歩道の幅が狭く危険性が指摘されていました。地元からの要望を受けてその声を市に届け、昨年度と今年度に拡幅工事費を盛り込み、改良工事が進められています。



【尼ヶ辻駅前拡幅】

道幅が狭く、通勤通学の時間帯は自動車、歩行者で混み合う近鉄尼ヶ辻駅前の拡幅工事を要望し、昨年度に拡幅工事をさせていただきました。



【ガードレール】

中学校の生徒らが通学路として使用している新村池を囲むガードレールは傷みが激しく、修繕を要望。危険個所のガードレールを修繕しました。



【路面舗装】

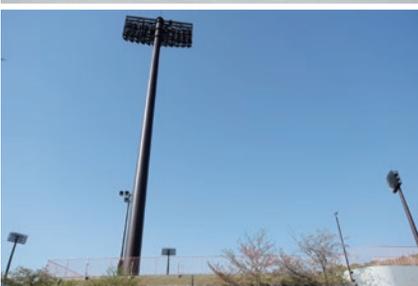
五条町の荒れた道路の補修を求める地元の声に応え、令和5年度に予算化。舗装工事に着手していただきました。



市総合福祉センター（奈良市左京5）の写真を今年度末に閉鎖する意向を固め、各利用団体に通知していただきました。

公民館の廃止案は、防災拠点や社会教育、地域交流施設の突然の廃止案に波紋が広がり、計画反対の請願が議会に提出され、市はこの計画案の廃止を表明しました。障害者福祉センターの一方的な閉鎖通知に対しては、存続を求める反対運動が広がり、市議会へ請願の提出があったほか、市中心障害者児福祉協会の連合会が約8000人の署名を提出。市はこれも廃止を撤回しました。

私と所属する会派の自民党は今回の西廃止案のように「思い付き」や「短絡的」な市政運営の廃止案を出すのではなく、全市民的な議論をすべきと指摘。また議会の場での議論なく進めることは議会軽視にあたるとして、手法の改善を強く求めました。



4基が設置し写真下

鴻ノ池運動公園 ランナー拠点や夜間照明も進む整備PJ

奈良市は、鴻ノ池運動公園の整備に取り組みプロジェクトを進めています。昨年度は市内初のスケートボードパークを整備したほか、シャワーやトイレ、ロッカーを完備したランナーの拠点施設「ロードランステーション」の真上IIが完成し、4月にオープンしました。サッカーJ3に所属する「奈良クラブ」がホーム会場として使用しているロードフィールド奈良は、大規模なナイターの開催も可能になるよう夜間照明を設置しました。設置したLEDの照明塔は高さ40・6m。4基が設置し写真下

る特別委員会「行財政改革及び公共施設等検討特別委員会」を設立しました。